認定 NPO 法人　産業クラスター研究会
URL　http://www.cluster.jp

ぶどうのささやき

33 号
2022 年
7 月 15 日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

市民活動で地域を元気に

横須賀市立市民活動
サポートセンター
館長　沼崎 真奈美

横須賀市立市民活動サポートセンターは、横須賀市内外の市民活動を支援する公の施設です。「市民活動」というとあまりなじみがないかと思いますが、「ボランティア活動」というと少し身近になるでしょうか。

市民活動は、暮らしの中での大小さまざまな課題を解決するために、市民が自主的に行動する活動です。活動の種類は多様です。福祉や環境保全、子育て支援、人権擁護、地域安全など、課題の数だけ活動があります。また、活動の対象となる世代も様々で、高齢者、子ども、若者など、いろいろな世代に向けた活動があります。

当センターは、そういった様々な活動をしている団体を支援し、活動の活性化を図ることで、ひいては地域の課題解決を目指しています。2019 年に創立 20 周年を迎えました。指定管理者制度で運営しており、運営は民間が担っております。運営主体は私ども「NPO 法人 YMCA コミュニティサポート」という団体で、市民活動団体を支援する「中間支援組織」です。

施設は汐入にあり、会議や作業のスペース、活動を紹介する展示コーナーなどを備え、ハード面から団体を支援するとともに、学習会や交流会を開催し、団体の基盤強化などのソフトの面での支援も行っています。7 月は、毎年「夏のボランティア・市民活動体験」が始まる時期です。この企画は、夏休みの時期に横須賀市内外で開催される市民活動の場を紹介し、市民の皆さんにボランティア活動を体験してもらう企画です。団体にとっては、市民に活動を知ってもらい、会員やボランティアを募る機会となっています。産業クラスター研究会の皆様にも、毎年様々な企画でご協力をいただいております。

また、当センターでは、登録団体にご協力いただき、各種相談会を開催しています。士業（弁護士、会計士等）の方々の相談会や、介護相談会等です。その相談会にも、産業クラスター研究会の皆様にご協力いただいております。「いまさら相談室」と名付けられたその相談会は、「いまさら聞けない」と思っているようなパソコンの操作や団体の会計などについて丁寧に相談にのってくださいます。セミナーや講習会に行くほどではないけれど、ちょっと教えてもらえばグンと作業がはかどったり、疑問が解決したりすることがありますが、そういったかゆい所に手が届く支援をしてくださっています。団体を支援している私たちが、団体に支援していただいている、まさに「協働」関係です。

市民活動をする方の動機は様々です。地域の課題に気づき、それを何とかしたいと活動する方、定年を迎えてできた時間を有効に使いたいと考える方、もちろん、自分が抱えている困りごとを解決するために仲間を募って活動を始める方もいらっしゃいます。産業クラスター研究会の皆さんは、現役時代に培ったスキルや経験を活かし、社会に貢献しようと奮闘していらっしゃいます。社会人の地域貢献のモデルとして、定年を迎えて地域に戻ってくる方々の活動の場として、これからもますますご活躍ください。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003 年 8 月に産業クラスター研究会を設立しました。

本年度の活動計画について

理事長　富野 養二郎

平素より皆様からの弊会へのご理解、ご支援に対し深く感謝申し上げます。

５月に行われた決算、及び予算総会はお陰様で滞りなく終了することができました。

長かったコロナパンデミックによる企業活動や社会活動の制約も少しづつ緩和の方向が見えてきた矢先、ロシアによるウクライナ侵攻により経済や国際関係の不透明さが新たに浮上し、いま世界はさらなる困難に直面することになりました。

弊会は、今年度は従来の活動をできるだけ再開したいと考えていますが、コロナの完全収束はまだ見えておらず、従来行われていた公共事業としての各種イベントの再開の目途も立たないことから活動方針が明確には出せないと言う状況ですが、各部会とも当面は支援等の準備を怠らず再開に備えること、またできることは積極的に取り組もうと決意を新たにしています。

さて表題の総会で決定された当会の今年度の活動計画について主なものをご報告致します。

1）SMS（持続性ある経営管理支援）支援事業部会
①横浜市の第三者評価機関として審査対象施設を獲得する（３施設については決定）
②企業への各種資格（ISO,EA21, PISM, CSR 等）獲得についてのコンサル事業
③SDGs の仕組みの企業や学校への啓蒙、セミナーの開催
④HP, カタログ等の制作支援、特許取得支援

2）海外関連事業部会
①米軍調達支援、及び企業の技術文書等の翻訳、通訳
②横須賀、及び三浦商工会議所の各種英文案内の製作等ニーズ開拓
③いまさら相談室にて日本語⇔英語の疑問、質問への回答

3）新しい公共支援部会
①情報セキュリティセミナー及び電子帳簿保存法関連セミナーの開催
②一般市民課題解決支援の「いまさら相談室」開催（毎月第三水曜日；汐入市民活動サポートセンターにて）
③神奈川県と共同開催の中小企業活性化推進セミナーの開催
④観音崎自然公園にて「もの作り教室」の継続開催（横須賀市補助金事業）

4）IoT 研究会
①IoT 技術普及のためのセミナー開催＆Zoom による勉強会継続
②IoT 導入企業の発掘と支援

特に活動方針に取り上げている市民協働のボランティア分野の活動と自主事業の展開は、中小企業の事業活動支援や、企業と連携した公益性のある課題のために、積極的に取り組んで行くことにしています。併せて、NPO 法人の活動費の原資は活動に協賛していただく個人や法人企業からの寄付金であることのご理解をいただき、一層のご協力をお願いしたいと思っています。

本年４～５月にかけてコロナ禍の影響で順延となっていた当会協賛企業様への訪問がようやく叶い、多くの経営者様、担当者様と意見交換ができましたが各企業様とも既存の事業をしっかり維持され、中には事業の拡大を計画していたり、業務改善の資格の取り組みを行っていたりと難しい時代に果敢に挑戦する企業様もあってその姿に感銘を受けました。訪問先の皆様方には厚く感謝申し上げます。

本年度も上記計画に基づいてしっかり活動を行う所存ですので皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

【歳時記】爺々の楽しみ（庭からの贈り物）

横須賀は、冬は暖かく夏は涼しく住みやすい。その中でも更に陽気が良いと言われている馬堀海岸に住んでいる。草木が芽を吹きだすころになると庭のみどりはみるみる広がり、花が咲くころになるとあちらこちらで彩りが豊かになる。欲張りな私はその後に実をつける木々を楽しみにしている。

我家の庭木で最初に花が咲くのが梅と白木蓮。梅の一週間ほど後には早咲きの桜も開花するが品種は不明。この木のサクランボは市販物と同じような色つやで昨年は親指の爪ぐらいの大きさになったが収穫前日に鳥に全部持っていかれてしまった。自然の中で生きていく動物の能力はすごいものとほとほと感心した。今年はネットを張って鳥の略奪を防いだが昨年よりは小粒。それでもバケツ半分ほど採れジャムにして楽しんだ。

他にレモン、温州みかん、オリーブはピンク、白など綺麗な花はつけるがなかなか結実に到らない。これも受粉直後に鳥がついばめてしまうようで、これまでレモンとミカン一個づつの収穫しかないありさま。

七月にはブルーベリー、これもジャムがよろしいようで。夏が過ぎると柿の収穫期。残念ながら渋柿なのでそのままでは無理。ヘタの部分を焼酎につけると甘くなるが渋みが少々残る。今年は干し柿に挑戦しようと思う。

十月ごろからは柚子。これはお正月のお吸い物に毎年使わせてもらっている。暮れには金柑、甘く煮漬けてのど常備薬に。

夏蜜柑は３メートル程の一本の木で毎年百数十個を結実。年が明けても北風に負けずに大きな実を付けて頑張っている。二月ごろまで待って収穫をすると酸っぱさが優しくなり食べやすくなる。そのまま食べるのも良し、少々の砂糖をかけて食べるのもそれなりの風情がある。食べきれない分は皮を刻んで果肉と一緒に砂糖で煮付けてマーマレードに。パンやヨーグルトのお供として長く楽しむことができるし、おすそ分けすることもできる。

若いころには庭の草木などに興味を示さなくとも、齢を重ねると生き物は行動半径が狭くなり身近にある自然環境に興味を示すようになると思われる。人間も生き物、動植物と同じなので自然環境と共存しないといけないのではないかと思います。（幹）

ブルーベリーの実

法人会員企業の紹介　ANA テック株式会社

大変動の時代に二代目社長の思いを聞く

2 年間続いたコロナパンデミックによる社会の混乱と閉塞感もウイズコロナ、アフターコロナの生活に向かって少しずつ動き始めました。しかしながらこの間に受けた世界中の人々の生活の混乱とその後の国際紛争や激化する地球環境変化・自然災害の発生により将来に対する不透明・不安感が多い状態です。そのような状況の中で創業 15 周年を迎えた「金属製品製造加工」を社業としている ANA テック株式会社は、2007 年 6 月に設立されました。

新たなる技術を・技能を生み出し
優秀な人材を育て
積極的な設備投資と高生産性を確保し
クオリティーやオリジナルといった付加価値を高め
社会貢献する製品を作り出していく。

上記の経営理念を掲げ、各種金属の切断・曲げ・溶接などの加工技術を磨き、人を育成する活動を続ける中でお客様に、良い製品を安定してお届けできるシステムの構築を目指して、国際品質管理規格　ISO9001（2008）認証取得に挑戦し、創業わずか 4 年の 2011 年に取得しました。小規模企業が ISO の認証を取得することは、実務的にも経営的にも大変な負担です。

さらに、それを維持して 2017 年に ISO9001/2015 版に更新しました。同社の**お客様に喜ばれる良いものをつくり続け**ようとの真面目なモノづくりの姿勢の表れと思われます。

新しい技術の導入に対しても積極的に取り組み「ものづくり中小企業・小規模事業者支援補助金」を活用しながらレーザー加工機、ベンディングマシーン、溶接ロボットなどの新機種導入とオペレーション教育を積極的に進めています。

一方、2012 年 9 月 FACEBOOK に初稿、企業活動の状況紹介を開始しました。FACEBOOK の日本語版がリリー

ANA テック株式会社　代表取締役　安藤 知史

〒 239-0836
神奈川県 横須賀市 内川 1-7-23
（電話）046-838-4860
（FAX）046-838-4861
（携帯）090-1814-4203
（URL）http://www.anatech.jp

スされたのが 2008 年で、SNS として日本国内で急伸したのが、2014 年頃からですから、早期に企業の情報発信として活用を始めています。SNS を活用したコミュニケーションの広がりは地元の若い人達に金属加工の楽しさを伝えるだけでなく、地域・異業種との連携など新しいテーマの発掘にも取組んでいます。

また、2013 年には、情報の共有化を図り生産性向上を目指すために Evernote の活用を始め、サイボーズの生産管理システムを導入するなど、DX 化も意識した取り組みを進めています。

＜安藤知史社長の思い＞

仕事を大きな木で例えた時に、一本の太くて大きな幹のある木のように、ひとつの会社から安定した受注量の中で顧客の求める要求事項を満たした受注体制を取ることが可能であれば、安定した会社運営をすることができるのかも知れません。ただ、当社はそのような受注体系ではなく、数多くの枝葉からなる木をイメージした製品受注を進めてきました。その中で製品基準の違いや３００社からなる顧客管理など難しい部分も多くありますが、様々な産業の製品作りをすることで知見を高め、これまでの製品作りを違った視点から捉えることが可能となる提案力はひとつの当社の強みとなりました。このような受注体制の中で、浅く広い知見に更に深みを出せるように社内でコミュニケーションを取りながら現在運営しております。そしてこれから産業を残すために、多くの方々に金属製品製造業を知ってもらうことが必要だと思っています。働く業種として雇用先に選ばれるために、ものづくりの可能性を金属で高められるように、さまざまな人の目に留まる取り組みを進め、0 から 1 を生み出す製品づくりを目指す一方で、図面に示されている決められたことをこなす中で、**１＋１ の答えに彩りを加えることが大きな強みであるという企業づくり**を目指していきます。（安藤知史）

（インタビュアー：伊澤俊夫・仲田清）

事業活動紹介

コロナ禍での IoT 研究会活動

IoT 研究会　槌谷 祐一

IoT は “Internet of Things” の頭文字をとった略号で、定義としては「モノの個体情報を集め、それを活用する仕組み」と言われています。AI、５G、ビッグデータ等と共に第４次産業革命の中核技術のひとつで、その応用範囲は多方面にわたっており、あらゆる産業のみならず、社会生活にも大きい変革をもたらしている技術と言えます。

IoT 研究会の立上げ

産業クラスター研究会としても、「中小企業に役立つ IoT」を支援メニューに加えるべく、運営委員会に研究会立ち上げの提案をしたのは 2020 年３月です。思い起こすと、クルーズ船ダイアナ・プリンセス号でのコロナ感染事故が２月にあり、日本でもコロナ感染の警戒が始まった時期でした。

ワーキング・グループで検討し、対象を製造業分野に絞る。IoT に関する基本的知識の学習、関心のある企業との共同研究、IoT 研究会の立ち上げ等が決まりました。

コロナ感染リスクを避けるため、大企業を中心にテレワークやオンライン通信手段が利用され始めたこともあり、使いやすさ、情報セキュリティも考慮し、Zoom ソフトの利用により、コロナ禍のもと有志で情報連絡会を始めました。

人が集まれない状況の中でできることはないか、情報発信が必要との議論でメルマガ発行のアイディアが生まれ、後刻広報部会で取り上げられ、メルマガ発刊の運びに繋がりました。もう一方で IoT 勉強会を始めることになり、毎週定期的に、Zoom 会議を開催しています。現在、個人会員の定例メンバーは７名です。その後の活動状況、詳細はメルマガを参照ください。

主な活動

2021 年度の主な活動は

１）法人会員に IoT に関するアンケート実施と参加企業（５社）への対応

２）オンライン通信での講演会の実施：２回

　①IoT の基本知識：講師　伊澤氏（当会個人会員）

　②モノづくり現場でのドコモの取り組み：講師　NTT ドコモ　大塚氏

３）IoT 勉強会　毎週定例会議　「日本型 IoT ビジネスモデルの突破口」輪読等

2021 年度後半では、横須賀商工会議所からの呼びかけで、NTT ドコモの IoT システム（振動センサーを用いる）を活用した生産性改善診断の取り組みへの参加要請を受け、今までの勉強会の成果を生かすべく参加しました。３社から応募があり、クラスター内で３チームに分かれ、それぞれの担当を支援しました。データ採取後、課題を摘出し、今まで見えなかった各種工程の段取り時間の把握や、ある工程の段取り時間の大幅短縮等の成果が上がり、生産性改善に結びつきました。

今年度の活動計画

IoT 研究会は会員及び参加企業の IoT に関する知識・技術レベルの向上を図り、企業の現場力・経営に資することを目的として活動していますが、2022 年度も Zoom を用いる情報交換会（1 回 / 週）を継続して進めて行きます。主な計画としては

１）IoT 個別支援企業の発掘と支援　横須賀商工会議所等他機関とも連携

２）講演会の開催　２回 / 年　開催

３）IoT 研究会活動　IoT 周辺技術の勉強会「日本型 AI ビジネスモデル」輪読等

IoT を構成する「センサーのデバイス」「クラウド」「通信技術の低価格化」が進み、導入のハードルが低くなってはきましたが、IoT の導入は、当然のことながら費用対効果を検証し、投資に見合う工程に限られると言えます。まずはスモール・スタートで成果を確認しながら、新技術を経営に活用しては如何でしょうか。現場の問題解決には経験豊富な企業 OB が支援いたします。ご相談ください。

会　員　募　集

地域経済に貢献しています
みんな仲間・出会いの広場
いっしょに汗を流しませんか

当会の Web サイト
http://www.cluster.jp

イキヌキ イキガイ 趣味の散歩

城ヶ島で見る三浦半島の生い立ち（地球の歴史散歩）後編

個人会員　佐々木 興吉

前回（2022 年 1 月 15 日発行）の中編に続き城ヶ島を見て行きましょう。

3. 関東ローム層は噴火の履歴書

城ヶ島の神奈川県立城ヶ島公園はよく整備され、年間を通じて花を楽しむことができます。年の初めにはもう水仙が咲きだしますし、春には桜、梅雨の季節は紫陽花が鮮やかです。展望台からは東京湾の入口が良く見え、海の東向こうには房総の鋸山や富山、南には大島。

公園入口の手前の小道を右に入るとウミウの生息地、この海食崖に三崎層群・初声層の上に赤みの関東ローム層が堆積している様子が見られます。「傾斜した初声層に対し関東ローム層が水平に堆積している不整合」と参考図書には紹介されています。左の写真の崖が飛び出たようになっているあたりがそうです。

ウミウの生息地

関東ローム層は箱根や富士山の噴火による火山灰が堆積したものです。箱根の火山は約 65 万年前に活動を開始しています。富士山の直近の噴火は 1707 年の宝永の大噴火です。その約 200 年前の 1511 年には室町噴火、さらにその前の 864 年の貞観噴火の時には大量の溶岩を噴出し、その後にあの広大な青木ヶ原樹海が誕生しています。このように噴火時の火山灰の堆積したものが関東ローム層です。

4. 付加体はダイナミックな地球の証

三崎層はフィリピン海プレートの沈み込みによってつくられた付加体です。その証は城ヶ島の南岸にスラスト（衝上断層 ）として見られます。城ヶ島は海底からやって来たということは前編で紹介しました。爪が伸びる速さで太平洋プレートに乗って、そして今も太平洋プレートとフィリピン海プレートは日本列島があるユーラシアプレートと北米プレートの下に沈み込んでいます。比重が重い海洋プレートは比重の軽い大陸プレートの下に沈み込むわけです。そしてマントルの深くまで落ちて行きます。そのマントルは地球内部で大きく対流しており、その対流が地殻であるプレートを動かしている。ご存知のプレートテクトニクス（岩板の変動学）です。海洋プレートが日本列島に沈み込むときに海洋底の削られた堆積物が大陸プレートの縁に付け加わって行きます。これが付加体と呼ばれるもので皺（しわ）のように折り重なって行きます。このようにして出来たのが三浦半島。その付加体が地質の違いを生み、境目が断層でないかと筆者は思っています。

5. 最後に

城ヶ島の誕生期、中間期、近代を現地から年代順に見てきましたが、地球誕生は 46 億年前。地球の歴史を 1 年のカレンダーに例えると、中編で紹介した三崎層が誕生した 1200 万年前は 12 月 31 日、大晦日ということになります。太平洋プレートやフィリピン海プレートは年間で爪が伸びるくらいの速さで動いており日本列島がある大陸プレートに沈みこんでいます。8000 万年もするとハワイ諸島は日本列島と陸続きになります。三浦半島に人が住み始めたのは 3 万～ 2 万年前。1 年のカレンダーで例えると大晦日の 24 時の 4 分前にも満たないことになりますが、この間でも貞観地震（869 年），宝永地震（1701 年）があり、富士山の噴火でも貞観噴火（864 年），室町噴火（1511 年），宝永の大噴火（1707 年）がありました。城ヶ島からは富士山が良く見えます。特に冠雪した冬の富士山は絶景です。大噴火の時も噴火の様子が恐ろしいくらいによく見えたのではないでしょうか。箱根噴火の火砕流は城ヶ島まで達していたと参考図書にもありますが、そこに暮らす人々は地震や噴火をどのように感じ、対処して暮らしてきたのでしょうか。

城ヶ島大橋からの富士の夕景

この地球の歴史散歩も前編から始めて中編、後編ということで一年が経ちました。この間、さまざまな出来事が地球を破壊し続けています。1000 年先、1 万年先には城ヶ島はどうなっているのでしょうか。私たち人類はどうなっているのでしょうか。

この後編を最初に読まれた方は前々回の前編、前回の中編と、通して読んでいただけたら幸いです。

（前・中・後編とも使用写真はいずれも筆者撮影）

トピックス　2 年ぶりに経営者交流会を開催

去る 6 月 17 日　産業交流プラザにて経営者交流会を開催、多数が参加しました。

コロナ禍で 2 年余りひかえていた経営者交流会。奉仕の精神について当会の濱田徹理事（湘南安全硝子会長）に講話をお願いしました。

濱田会長は小学生の頃、剣道の先生を通じ弱者支援に出会い、既に学生時代には児童養護施設の支援に携わり、近年知人から養護施設の運営を任され 14 年。施設の子供達には分け隔てなく、自分の子供と同様に接するということが大事という言葉が印象的でした。講話後の講師との意見交流の中では地域の社会貢献に当たっている会員も多数いることがわかり、新たな発見でした。（新しい公共支援部会　堀込孝繁）

事務局からのお知らせ

1.「三浦市民交流センターまつり」に出展参加
2022 年 3 月 13 日～ 20 日　三浦市民交流センターにて「三浦市民交流センターまつり」が開催され、当会もパネル展示をしました。詳細は Web サイト（「三浦市民交流センターまつり」に出展）を参照ください。
2. 2022 年 3 月 30 日　2021 年度第 4 回理事会を開催。2021 年度活動実績見通しの報告と 2022 年度予算案を審議し、2022 年度予算案を承認しました。
3. 2022 年 4 月 22 日　2022 年度第 1 回理事会を開催し、2021 年度事業・決算報告案の承認と 2022 年度活動計画案と予算案の承認、監事候補推薦案の承認、及び 2022 年通常総会の日程を決定しました。
4. 2022 年 5 月 13 日　2022 年通常総会を開催し、2021 年度事業・決算報告案の承認と 2022 年度活動計画案と予算案の承認、及び監事推薦案の承認を行いました。詳細は Web サイト「2022 年通常総会の実施報告」を参照してください。
5. 2022 年 6 月 17 日　経営者交流会を開催しました。講話は湘南安全硝子　濱田会長（当会　理事）の「奉仕の精神」でした。講話後は簡単な懇談会を行いました。約 2 年ぶりのためか楽しい交流となりました。

羅針盤

コロナ感染も収まりつつあり、新しい経済・社会の興りを期待しているが、まだ先が見えない。本号では、3 つの記事を取り上げる。

▼先ずは、理事長挨拶の「コロナパンデミック」による企業活動と社会活動・・・更なる世界の経済社会に大きな問題・課題を背負う」である。最近話題の 2021 年新書金賞 1 位「人新世の資本論」（著者：東京大学院准教授・斎藤幸平）による“人類の経済活動が地球環境を破壊する「人新世」と呼ばれる時代に突入する”　つまり、環境と経済成長をどうやって両立できるかが大きな課題であると説く。当会も「SDGs」を通じて、これからの支援を考えたい。

▼次は、法人会員のページ「㈱ ANA テック」の記事。中小企業の経営課題・問題は、「①販売不振、②人を育てる、③市場・技術開発、④跡継ぎがいない」などである。これらの課題に早くから挑戦し見事に成果を出し、健全経営が継続している。今後も、会社の発展と中小企業の先駆的な活躍を期待する。

▼最後は、歳時記「爺々の楽しみ（庭からの贈り物）」である。四季を通じての本来の歳時記である。人と自然環境と動植物との共生・共存は、地球規模での課題である。これを一時も外さず丹精込めての毎日に頭が下がる。その自然への鋭い観察力と表現力は、筆者が高校時代よく読んだ「随筆家としての山と自然を愛した串田孫一」と重なり感銘した。

▼本年度も、地域社会と中小企業の社会・経済発展の羅針盤となる支援活動を目指したい。（昭）

発　行：特定非営利活動法人　産業クラスター研究会
〒 239-0847　横須賀市光の丘 8 番 3 号　YRP ベンチャー棟 209 号
Tel & Fax：046-847-6355　E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
横浜事務所　〒 236-0055　横浜市金沢区片吹 69 番 26 号
連絡先：046-847-6355　E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
発行人：富野 養二郎